

自序

中國民衆生活の弱點は頗る多いが、その基本的弱點は貧と愚、弱と私等の現象である。而して此等の現象がすべて相互因果的であることはいふ迄もなく、貧窮は愚、弱、私を招來し、愚は常に貧、弱、私の機縁となるのであり、その間に輕重、主従の別が存するに過ぎない。故に若し此等の現象を研究せんと欲すれば或る一つの弱點を主體として分析検討を加へ、漸次其他の弱點に及ばなければならぬが、今日の中國に於ては貧窮の解除こそ最も切迫した問題であるから先づ貧窮問題に關して深く研究する必要があると信ずる。即ち古語に「富みて之に教ふ」とある通り貧窮の重圍の中では生計を求めるに汲々たる餘り、教育を受ける暇がなく、衛生或は團體の利益に注意を拂ふ餘力もないからであり、況んや今日の中國の如く全人口の四分の三以上が水平線以下の生活に呻吟しつゝあるに於ては如何にして能く文化を發揚し、如何にして能く他民族を凌駕し、且つ國防、建設、治安等々を樹立完成することが出來よう。

吾人は社會問題及び貧窮とその救済に關する諸問題を講義すること既に數年に及び、蒐集した資料は相當量に達してゐるが、然し未だ之を以て十分なりといふことが出來ず、殊に貧民の實際

的調査に於てそれが甚だしい。また最近北京燕京大學及び南京金陵大學に於ても之に關する調査を施行してゐるが、その結果は矢張り不完全たるを免れないのである。蓋し、これは研究範圍が極めて狭い上に甚だ複雑多岐に亘り、各方面の資料を必要とすることに由來するもので、吾人の限られた學識を以て此の種問題を分析検討することは大膽なる試みといはねばならぬが、吾人はただその重要性を思ふの餘り、之と關聯を有する各種問題を提出し、假令研究成果は不完全とは云へ、之に依つて一般人の研究に些かでも參考となる所があれば望外の幸福とするものである。従つて本書の五分の三以上が、中國貧窮原因の分析に費されてゐることは極めて當然であり、その答案に關しては各専門家の共同研究に待つこととする。

尙ほ本書を著すに當つて各方面人士の御助力に負ふ所が多く、殊に終始吾人を鼓舞激勵して呉れた家弟堉華、謄寫の勞を厭はなかつた象實に對し、作者として改めて深甚なる謝意を表すものである。

謹しんで本書を亡き父母に捧ぐ。

民國二十四年一月

於南京小陶園

柯象峯

目次

緒論	一	
第一章 貧窮の實況	九	
第一節 貧窮と生活程度	九	
一、貧窮の意義	二、生活程度	
第二節 各國生活程度の比較	二二	
一、各國收入概況	二、各國支出概況	三、各國生活内容の比較
第三節 各國貧窮現状の統計	三六	
一、英國の貧窮實況	二、米國の貧窮實況	三、日本の貧窮實況
四、中國貧窮人口の統計		
第二章 貧窮原因の分析	三六	
第一節 貧窮原因概論	三六	

一、貧窮原因分析の發達 二、ジリンの貧窮原因論
 三、ペーメリー及びデクスターの貧窮原因論 四、中國貧窮原因の研究

第二節 中國貧窮の物質的因子 一〇三
 一、資源の缺乏 二、氣候と災害

第三節 中國貧窮の生物的因子 一〇五
 一、蝗害及び病蟲害 二、中國の人口

第四節 中國貧窮の政治的因子 一〇七
 一、内政の不修 二、外患の累増

第五節 中國貧窮の經濟的因子 一〇九
 一、生産方面―生産要素の不健全狀況 二、交易方面―交易要素の不健全狀況
 三、分配方面―分配の不健全狀況 四、消費方面―消費の不健全狀況

第六節 中國貧窮の社會的因子 一一九
 一、社會組織と制度、風俗の弱點

第七節 貧窮の影響 一二〇

一、貧窮の循環性 二、貧窮と其の他の社會病態

第三章 貧窮の豫防及び救濟 一二三

第一節 貧窮の豫防 一二三
 一、中國自然環境の改善 二、中國人口政策の採用
 三、中國社會環境の改善

第二節 貧窮の救濟 一二六
 一、歐米の救濟事業 二、中國の救濟事業 三、救濟事業の組織及び原理

結論 一二五

緒 論

(一) 社會病態

貧窮は一種の社會的病態である。然らば如何なる病態かといふことを究明する前に先づ解決して置かねばならぬ問題がある。それは病態と相對的關係を有する常態といふ語である。人に依つて常態とは平均的現象なりと説き、或は一種の理想的現象なりと説くが、實際上から論ずれば所謂常態とは必ず相互融合協調の意義を包含してゐるのである。例へば人體の常態的溫度、即ち常溫は攝氏三七度(華氏九八・六)とされてゐるが、これは人體の平均溫度を示すものではなく、三七度を常溫とすることに依つて、人體構造方面の必需とその組織方面とを相互に調整するものなのである。之を前記二説と比較すれば常態は常に平均的であるが、平均的現象は必ずしも常態ではなく、又常態は常に現實的であるが、理想は多く非現實なのであるから相容れぬといふべきであらう。

以上の見解よりすれば常態的社會現象は一個の社會内に於て常にその他の社會現象と調和する

ものであり、決して理想的でも平均的でもないばかりか時としては變態或は病態が普通のこともあるし、反對に平均的事態が常態とは相距ること遠い場合もある。例へば米國の調査に據れば一年一人の平均煙草消費量は五・五七ポンドであるが、これは決して米國民生活の常態ではなく、すべての男女小兒が毎年五・五七ポンドの煙草を消費するといふのではない。たゞ吾人が言ひたいのは常態的社會現象は或る特殊の社會に適合し而もその他の局部とも圓滑な關係を有して衝突又は矛盾を生じないといふ點であり、従つて所謂常態的社會現象は空間性及び時間性的のものであるといふことが出来る。例へば童貞結婚の如きは或る特殊の部落に於ては一種の常態的社會現象であるが、歐米社會では之を病態視し、また自由戀愛結婚は甲社會に於て一種の常態であるが乙社會に於ては病態とされるが如きである。而して空間的に斯の如くであるのみでなく、同一社會内でも文化發達を異にする各段階に於て之と同様であり、例へば某社會の資本主義段階時代には自由競争を常態とするが、統制經濟の段階に進めば之を病態とするのである。

常態は圓滑平淡、無聲無臭である爲め、吾人は平常その存在を忽視してゐるが、一たび之に衝突矛盾が生じた場合、著しく不安を感じて常態に對する認識を新にするものである。卑近な例を引けば人は健康時（常態）に於て身體の健康といふことに何の感覺をも有しないが、一たび不健

康（病態）に陥つて發熱、口渴、疼痛等を覺えると平常の健康な生活を羨み、之に對する認識を深くするのであり、故に社會學者が社會病態を研究することに依つて社會常態を検出するのは、此の理由に基くものなのである。

然らば社會病態の内容は何であらうか。學者に依つて幾多の見解があるが、之を比較すれば尙ほ多くの類似點が存する。比較的早く社會病理學を研究した學者にリリエンフェルト (Laud e. Lilienfeld) 及びヘンダーソン (Henderson, C. H.) があり、その後フェアチャイルド (Fairchild, H. P.) フォード (Ford, G.) スミス (Smith, S. G.) クイーン (Queen) マン (Mann) の諸家が此の問題を討論した。

(イ)リリエンフェルトは會つて社會病理といふ書を著したが、此の書は三段に分れ、第一段は社會の病態を論じ、第二段は社會内に於ける各分野——經濟的、法制的、政治的等々の病態を論じ、第三段はその治療法を論じてゐる。彼は有名な生物學的社會學者である故、その討論も多く生理的方面の事態を例證としたのであつた。

(ロ)ヘンダーソンは一八九三年『依食者、廢殘者、犯罪者』といふ書を著して社會の落伍分子を此の三種とし、四編三十五章の中第一編では依食者を論じて貧困とその救濟の諸問題を分析し

第二編では廢殘者の心理問題を論じ、第三編では犯罪及びその處置、第四編では社會衛生及び診療問題を討論した。

(ハ)フエアチャイルドは『應用社會學』を著し、社會病態を (一)惡徳(過失に因る惡徳、犯罪を包む) (二)無能(個人的及び社會的能力失墜)に二分した。

(ニ)フォードは『社會問題と社會政策』を著したが、書中討論の主要問題を (一)廢殘問題 (二)貧窮問題 (三)犯罪問題とした點ヘンダーソンと類似してゐた。

(ホ)スミスは『社會病理學』を著して社會病態を (一)病態的境遇(貧窮) (二)病態的行爲(犯罪) (三)病態的心理(白痴低能) (四)病態的感官(盲聾)に分ち、更に優生、診療、社會衛生等を論じた。

(ヘ)クイーン及びマンは一九二五年『社會病理學』を著して社會組織並に個人方面から社會病態を三編に分説し、第一編は家庭分解と個人的墮落として離婚、遺棄、私生兒、娼妓等の問題を分析し、第二編は經濟組織方面に於ける社會分解と個人的墮落として病氣廢殘、低能不良、劣惡嗜好等の問題を分析し、第三編を結論として社會の改組及び人格改造の諸問題を論ずる等、良書として恥かしからぬものである。

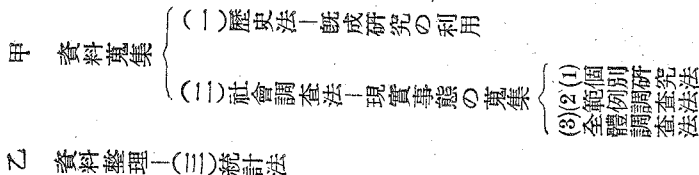
以上諸家の説を綜合するに社會病態の内容に關して類似の點が頗る多い。之を現象として分類すれば貧窮、犯罪、廢殘、個人として分類すれば依食者、犯罪者、廢殘者(心理的及び生理的)、社會組織より分類すれば家庭分解、經濟組織より分類すれば社會分解、また健康方面に於ける社會分解、更に政治、法律、道德、宗教方面等々の社會分解等多種多様なものがあるが、如何なる分類と雖もその主要問題は貧窮、犯罪、廢殘に外ならず、此の三者間には頗る多くの因果關係が存するのである。然し、その中最も主要なものは貧窮であるから、本書は先づ之に關して研究せんとするものである。

(二)研究方法

通常、事物の研究を行ふ場合には先づ科學的方法に依つて順序を立て、次に問題の範圍を確定し、更に假定の組立、資料の蒐集整理、結論の抽出をしなければならぬが、その中資料の蒐集及び整理が最も困難である。社會病態學は一種の應用社會科學であるから、その任務を (一)調査(資料の蒐集) (二)診斷(資料の整理及び結論) (三)救治(控制)に分ち得るが、資料の蒐集は現實の病態材料を蒐集することである故第一步に推し、その整理及び結論の抽出は病態に對する診斷である故第二步とし、また應用科學は純粹科學に比して更に一步を進め控制の道を求めねば

ならぬ故、救治を最終とした。これは要するに診断後慎重に治療を加へるのと同じことである。

社會資料の蒐集方法に關しても學者に依つて各々差異がある。パルマー女史(Palmer)は(一)個別研究法 (二)歴史法 (三)統計法の三種とし、チャピン(Chapin)は社會科學の實地調査方法を(一)個別調査 (二)選擇調査 (三)全體調査とし、國人樊弘氏は(一)歴史法 (二)個體研究法 (三)標準調査法(選擇調査法) (四)全體調査法 (五)統計法の五種に分つてゐる。吾人の見解は以上の各方法を綜合した結果、第一類を資料蒐集法として(一)歴史法 (二)社會調査法の二種とし、後者を更に(1)個別研究法 (2)範例調査法 (3)全體調査法の三に分ち、第二類を資料の整理として統計法としたいのである。之を圖示すれば次の通りとなる。



以上の各方法は何れもその場合々に特殊の效用を有し、例へば精密實質的な研究を要する時には個別研究法、數量的研究を要する時には範例又は全體調査法を用ふべきである。然し注意せ

ねばならぬのは此等が何れも相互に用ひられるといふことであり、例へば一個の團體又は現象を研究する際、第一に歴史法を用ひて各種參考資料を蒐集し、第二に個別研究法を用ひて一個の例を研究しつゝ、その問題を各方面から觀察して研究範圍を定め、第三にはその對象自體の歴史的背景を究めて既往との因果關係を知り、第四に各種社會調査方法を用ひて該問題の各方面の概況及び相互關係を研究し、第五に統計法を用ひて整理比較に依つて、研究成果を數量的に表現するのである。従つて此等の各方法は決して獨立して存在し得ず、相互關作用を有するものなのである。

本書は以上の如き諸方法を應用して、中國に於ける貧窮問題を研究せんとするのであるが、第一章に於ては貧窮の概論及び中外の貧窮情況を分析記述し、第二章に於ては貧窮原因の探究に努め、各學者の學說を列擧するのみならず、特に中國に於ける貧窮原因を物質、生物、政治、經濟、社會等の各方面より詳細に研究し、第三章に於ては貧窮の救濟を論述することとしよう。本書の輪廓は大體此の通りである。

である。

四、消費方面—消費の不健全狀況

(十四)貯蓄の不善と家政の不良 中國經濟方面の弱點は生産の低落、貿易の不振、分配の不均衡のみでなく、僅少の收入にも拘はらず消費が頗る多いといふことにも起因する。即ち盜賊の横行及び信用し得る金融機關の缺如に因り資産家は資金を死藏し、一方人民(殊に主婦)の家政に對する無智に因り收入を適當な用途に使用せずして大部分を浪費してゐる有様である。加之、劣悪な習慣及び嗜好(次節に詳述する)が普遍してゐる爲め、人民は家産を傾けない迄も益々貧窮化しつつあるのである。

第六節 中國貧窮の社會的因子

中國の貧窮は單に物質及び生活基礎の不健全が造出するのみでなく、社會的基礎方面からも之を檢出し得る。故に政治、經濟的檢討の外に種々の社會的因子を取出して直接、間接貧窮に影響する點を論ずることとしよう。

一、社會組織と制度、風俗の弱點

(一)家族制度

中國人民の行爲を支配する思想及び習俗は甚だ多いが、その中心勢力を成すものとして儒教思想を推さなければならぬ。元來、思想の發生は環境の需要に應じて結晶したものであるが、環境が變じ需要が消滅した後に於ても舊時代の思想は深く人々の心に食ひ入つて拂拭し難く、その結果會つては社會の發展に寄與した思想及び制度が遂には社會の發展を妨害するものと化してしまふのである。家族制度の如きは正に此の例であり、中國の家族主義が環境の需要に應じて發生し

たことは陳獨秀氏も「中國の氣候、土地は農業に適し、農業が発達した結果、家族主義が発達した。孔子の學術思想及び孔子が祖述した堯舜の思想は完全に家族主義を根據とし、所謂夫婦あつて後に父子あり、父子あつて後に君臣あり、彼の孝道、祭祀はすべて家族主義の特徵であつた。即ち中國の土地及び氣候が中國の産業状況を造成し、その産業状況が社會組織を造成し、社會組織が孔子以前並に孔子の倫理觀念を造成したのである」(註)と説いてゐる。

註 獨秀文存卷二『新教育とは何ぞや』

斯の如く孔子の思想は時代の必要に基いて生み出され、歴代君主はその政治哲學が君主政體の維持に有利なることを知つて漢以降之を護符として使用した。然し時代の車輪は絶えず前進を續け、農業を主體とした産業は商業資本の擧頭、手工業の發達に伴つて都市化、工業化の途に赴いたのであり、斯かる經濟組織の動搖、改變の過程に於て家族制度が昔日の狀態を保持し得る道理はないのである。而して家族主義が中國社會特にその生産事業に及ぼす影響として次の諸點が考へられる。

(イ) 守舊心理の養成 家長専制の家庭内では子女は家長の命令に絶対服従し、家長の死後もその遺言を守らねばならぬ。即ち論語の所謂「三年父ヲ遺ヲ改ムナクシテ孝ト謂フベシ」がこれで

あり、その結果舊法を墨守する思想となつて生産事業其の他種々の方面にも影響を及ぼし、一種の阻害を形成してゐる。

(ロ) 依頼心の養成 家族制度の結果、家族相互間に依頼心を養成することは當然であり、家族の中から一人の成功者が出れば兄弟相率ゐて衣食するのが普通となり、社會上相當の地位を占めた人の一家に百十人の家族が寄生する如き怪しむに足りない。だが依頼性及び家族同居の結果は別方面に於て個人發展阻害の悪影響を生むことは日本人長野朗(註 現興亞院囑託)が「家族制度に束縛せらるる中國人は輕々しく外出して職業を求めないし、外に在つて職業を有する者も、家庭の束縛を離脱し得ない。即ち結婚の自由及び財産私有權等はすべて許されないのであるから家族制度は個性を没却するものといふべく、個人の活動を望むことは不可能である」(註)といつてゐる通りである。家庭内の大多數が依頼心あつて進取性なく、生産に従事する者少なくして無職の人が多い状態に於て、如何にして貧窮を免れることが出来ようか。

註 長野朗著『中國社會組織』(朱家濂譯)四六頁。

(ハ) 傲慢性の養成 個人が完全に血縁團體(家族)の中に吸収された結果、より大なる社會組織に阻礙を及ぼしてゐる。例へば國家の發展其の他家庭より大なる組織の事業がこれに依つて阻

まれてゐるのであり、彼等はただ家庭あるを知つて社會、國家あるを知らぬ爲め、家庭道徳は充實しても公徳は發達せず、中國に比較的大規模な事業が發展しない原因は實に茲に存する。日本人稻葉君山が「率直に言へば中國の社會組織そのものが中國現代生活を停滯せしめる重大原因となつてゐる。社會組織とは何か。中國の家族制度そのものといはざるを得ない」(註)といつてゐる通り、家族主義の極端な結果は先人安葬の爲めに全國耕地の五乃至八パーセントを墓地としてゐる程である。(バック教授の調査に據る)只でさへ耕地不足の中國に於て一種の土地の浪費であり、中國生産事業の發達せぬ責任の一部は家族制度が負ふべきであらう。

註 楊祥蔭『中國文化之特質』(東方文庫所載)参照。

(二) 宗教的迷信と習俗

中國人民思想を支配するものとして儒教思想の外に各種の迷信及び習俗があり、その人民生計に及ぼす影響も亦甚大である。中國人民の信仰は極めて複雑且つ矛盾が多く、祖宗の祭祀の外に李老君、釋迦牟尼佛、觀世音、財神其他無數の神人、鬼靈を禮拜の對象としてゐる。毎年此の爲めに投ずる財産は頗る巨額に上り、英人ウエブスターは「中國人は道徳及び宗教に對し敬虔且つ眞摯であり、往々自殺して節に殉じ或は寺院、堂宇、墓碑の建設に費用を惜まない。統計に據

れば之に投ずる費用は一年三〇〇、〇〇〇、〇〇〇弗に達するといふ」(註一)といひ、又民國二十一年濟南の風俗展覽會に於ける年中行事の説明及び統計に據れば觀音に投ずる費用は濟南三二、八七四元、山東省二、六二三、五〇〇元、全國三五、〇〇〇、〇〇〇元で之を以て百九十五萬人の半年分の食糧を購入することが出来るし、財神に投ずる費用は濟南九、三九二元、山東省七五三、〇〇〇元、全國一〇、〇〇〇、〇〇〇元で之を以て年産四千四百萬ポンドの製紙會社を設立し得られ、門神に投ずる費用は濟南七、五一四元、山東省六〇二、〇〇〇元、全國八、〇〇〇、〇〇〇元で、その利息のみを以て保安隊四百六十人を養成することが出来る。また龍君に投ずる費用は濟南一、八七八元、山東省一五〇、六〇〇元、全國二、〇〇〇、〇〇〇元で之を以て日産四十五萬袋の製粉會社を設立することが出来るし、また國公に投ずる費用は濟南一八、七八五元、山東省一五六、〇〇〇元、全國二〇〇、〇〇〇、〇〇〇元で之を以て銃四百萬挺、彈丸一億發を購入し得ると見えてゐる。(註二) 僅かこれだけの費用が全國で七千五百萬元といふ巨額に達してゐるのであるから、之に香、紙、蠟燭代及び建築費等を加へれば驚くべき額に達するであらう。民衆財難の中國に於て此の消費は生活費の一大負擔となるべく、迷信に基いて投機を行ふに至つてはその害眞に甚だしいものがある。

迷信の外に儒教に基く各種習俗の繁文縟禮並に時間と金錢の浪費も一大缺點である。禮の中では喪禮と婚禮が重視されるが、此等が何れも産を破り負債を作る原因となることは識者の風を知る所であり、その弊害は今日に至つても未だ是正されないのである。

註一 J. B. Webster : Christian Education and The National Consciousness of China.

註二 周蔭棠『中國宗教問題』二八頁。

(三)教育

知識は生活の工具であり、知識が缺乏すれば生産或は消費が適當に行はれない。換言すれば收入と支出は知識の影響を受けること甚大であり、貧と愚は常に相伴つて發生するのであるが、此の傾向は特に中國に於て甚だしい。中國教育の缺點は頗る多いが、茲では文盲の過多と生産教育の缺乏に就いて論ずることとしよう。

國名	人口一萬に付初等教育を受けた兒童數		同中等教育を受けた數		同高等教育を受けた數	
	年度	人數	年度	人數	年度	人數
中國	一九三〇	二三六	一九二九	七・二三	一九三一	一
米國	一九二六	一、七六八	自一九二五年至一九二七年	三〇七・七八	一九三一	七三

日本	一九三一	一、五八二	同	九三・一九	一九三一	六
英國	一九三一	一、五八〇	同	一一五・二八	一九三一	二二
伊太利	一九三一	一、二三〇	同	五〇・五八	一九三一	二一
ドイツ	一九二七	一、二二五	同	一六四・二九	一九二八	二四
佛國	一九二九	一〇八八	同	四〇・九一	一九二九	一七
ソ聯	一九三一	八四三	同	四八・〇九	一九三一	一七
印度		二四五	同	四七・二二		〇・三

此の表に據れば中國に於ては人口一萬人中初等教育を受けた兒童數は二三六人で米國の八分の一、日本の七分の一に當り、印度と略々等しいが、若し人口百人毎に計算すれば僅に二人の就學兒童があるのみとなり、從つて文盲の多いのは極めて當然である。教育部の統計に據れば各省市の初級小學兒童數は學齡兒童總數の百分の一七・一にしか過ぎぬ故、失學兒童の多いことも亦甚だ重大な問題である。一國家大多數の人民が斯の如き有様とすれば一切の物質環境を改善し生活程度を向上して社會の需要に適應せしめることは極めて困難であり且つ成功を見ることが少ないであらう。社會心理方面から見れば人類生活とは自然環境及び社會環境に適應する各種行爲の總和に過ぎず、その人類の行爲は刺戟、反應の二部に分ち得る故若し人類生活を改善せんと欲すれば刺戟の對象及び工具を改進して人類を有効に啓發するものたらしめ、然る後に人類行爲の反應

方面の内容を改進して適宜な刺戟に對し高度の反應を擧げ得るものたらしめなければならぬのである。刺戟(或は環境)を支配するには固より之を學術及び教育に求めねばならぬが、國民をして種々の反應に適應するやうに訓練するのも亦教育に倚らねばならぬ。大にしては外侮を防禦し、内政を興し、小にしては個人生活の技能を改善するのは教育に因らなければ効果を擧げ得ないのである。普佛戦争の勝利をドイツが小學校教師の功に歸し、強隣日本及びソ聯が國民の訓練に教育を極度に利用してゐる如きは何れも此の故である。之に反し中國の生産技能は低劣、生産方式は醜陋にして次第に植民地的存在に墮しつつありながら國民が之を知らないことを思へば、貧窮問題の如きは餘事とすべきであらう。

生産事業の指導人材及び技術人材の如何を知るには中等以上の教育状況を見ねばならぬが、中國に於ては既に初等教育を受ける者が少ないのであるから中等教育を受ける人数は更に僅少である。即ち中國では一萬人中、中等教育を受ける者は七、二三人に過ぎぬに對し、米國は三〇七、七八人、日本は九三、一九人もあり、貧弱な印度ですら四七、二二人あつて中國の六七倍に達して居り、高等教育に至つては一萬人中僅に一人あるに過ぎず、之を米國の七三人、日本の六人、英獨佛ソ聯の十餘人と比較すれば優秀な人材の缺乏は蓋し當然のことといはなければならぬ。

中國は既に教育を施行して數十年に達するが、一方生産事業が發達せず、他の一方失業の聲が高いといふ矛盾を生じてゐるのは必ず何等かの原因がなければならぬ。而して生産教育の缺乏こそ重要原因の一であり、それには職業教育の未發達と實科人材の僅少といふ二者がある。民國十九年度教育部の統計に據れば全國中等學校數二、九九二校、その中職業學校は僅かに二七二校で百分の九、〇九に過ぎず、其の他は師範學校二八、二七、初級中學四四、一二、中學一八、五二となつて居り、生徒數は合計五一四、六〇九人の中職業學校生徒は僅かに三九、六四七人で百分の七、七に過ぎず、師範生一八、一、其の他普通の中學生が四分の三を占めてゐる。之をドイツに於ける一萬人中職業學校生徒三九三人、中學生一三二人、佛國に於ける一萬人中職業學校生徒九一人、中學生八一人といふ數字と比較すれば一國産業の發達、不發達の差は歴然たるものがあらう。大學に至つては民國二十年度教育部の統計に據れば法科、文科、教育及び商業科學生が三三、九六六人に對し工科、理科、醫科、農林科等の實科學生は二一、二二七人で七四・五對二五・五の比となつてゐる。勿論前者と雖も重要ではあるが、後者の少ないことは直ちに生産事業人材の缺乏を招來するものであり、その原因は今日の學生が官吏となることを出世の捷徑と考へ、勞働を忌避することに基くものである。

(四) 衛生

生産は健全な心身を需要するが、健全な心身こそ事業成功上必要な最低の條件である。而して心身健全の途徑としては栄養と保健の二者があるが、此の中栄養方面の缺點として中國大多數の人民が貧困の爲め營養不足に陥つてゐることは第一章に於て既述した通りであり、此の外富者の常食も脂肪過多の嫌ひがあることは周知の事實である。次に保健狀況に關しては衛生設備の不足に因り疾病の増加、惡疫の流行を惹起し、健康及び生命の損失は甚大なものがある。民國二十二年中央衛生設施實驗處生命統計室が國內各大都市の醫藥設備狀況を調査した結果に據れば二十八都市に於ける西醫三、二三一一人、漢方醫二二、六五一人、藥劑師及び藥劑生二、一七三人、助産婦二、五一五人、舊式產婆七四一人、醫院數五五三、病床數二五、六七〇、西藥店八二三軒、漢方藥店三、四八二軒となつてゐるが、各都市の人口總計は二千萬であるから一千人以上の人口につき一人の醫師或は病床が存在することとなり、設備の不足及び簡陋さは推して知るべきものであらう。之を表示すれば次の通りである。

都市名	西醫數	漢方醫數	藥劑師數	助産婦數	舊式產婆數	醫院數	病床數	西藥店	漢方藥店
南京	二二三	三四五	五四	五二	七三	四五	七四七	四四	一一五
上海	四七三	四、七八〇	一二八	二七八	一	三一	一、九六七	五二	二九
北京	二三〇	八八六	五二六	六四	一三〇	一七	一、五八七	六七	二四五
青島	六四	一九一	一二	一〇	一	一七	五三四	三五	二二一
威海衛	四四	二二三	一	二	二	二	五〇	一	三四
鎮江	四四	一〇三	四二	一七	二	二	二六七	一一	三一
杭州	一九〇	二六一	一九	四	四	四〇	一、三二五	三八	一四三
安慶	三三	一一五	一五	四	九	一五	二二六	一二	四七
南昌	五九	二四七	三〇	一七	三六	二六	五〇〇	三一	七五
閩侯	一三一	三四四	八一	三四	三四	四一	一、〇〇四	五四	一五五
廣州	九〇九	一、九七二	九七	一、七四七	一	二	一、九八一	七九	五九八
汕頭	四四	三〇六	一	三七	一	八	五五五	三六	九八
邕寧	二二	七七	三七	一六	一	四	二二六	一六	五八
梧州	三〇	一〇一	一五	一八	一	三	二八〇	一三	四二
長沙	六六	二七四	一五	二一	四六	一六	四〇〇	二五	一八二
武昌	七一	二三四	一八三	二〇	四二	六	四三四	二〇	九九
漢口	一六〇	五八八	三〇二	三六	七五	二九	五九二	八〇	一六六

貴陽	三〇	一三七	一六	一〇	二〇	七	一〇三	三	五三
昆明	二三八	一八三	二〇	一五	六四	〇	四一〇	二二	一〇〇
天津	一三八	八三七	二二	二〇	三四	六	四一四	六二	三三四
開封	八七	一三一	二七	二二	三二	四三	四一九	一五	八三
濟南	四七	二三六	一〇	二二	四	二	六六二	五二	三七
曲陽	五八	六一	〇二	四	九	二	四四八	二二	六五
長安	三二	六四	四三	六	七	二	二六三	一〇	七八
蘭州	三五	三五	六〇	四	一	一	七四	一〇	三一
歸綏	九	三三	一	一	一	一	一六三	一〇	二六
全學	三一	七三	二二	一七	一五	二	一七	七	三三
西學	八	二	二	一	二	三	二二	一	二四
合計	三、二三一	二、六五一	二、一七三	二、五二五	七四一	五五三	一五、六七〇	八二二	三四八二

註 中央衛生處第一次報告及び申報年鑑第二回一、二七二頁。

(五)嗜好及び奢侈

人類は單調な生活を欲せずして、衣食住の外に二種の刺戟又は生活の趣味を求めらるるものであるが、此等の刺戟又は趣味を習ふこと久しきに亘れば遂には嗜好となり、全體生活の一部となることは自然の理である。然し一口に嗜好といつてもその種類は頗る多く、健康及び經濟方面から説

けば心身に有益ながら大なる費用を要せぬものあり、心身に有害にして且つ甚だしく費用を要するもの等があるが、不幸な事には中國人民は貧しい上に幾多劣悪、下等な嗜好に耽溺し、心身を害し且つ資財を浪費してゐるので富者も忽ち貧となり、貧者は忽ち赤貧と化する始末である。嗜好の大部分は吸ひ(阿片)飲み(酒)買ふ(娼妓)及び打つ(賭博)等の不良嗜好であり、民國十九年上海婦女節制會の調査に據れば上海の人民にして阿片を吸ふ者は全人口の百分の二八、煙草を好む者は百分の七四、飲酒家百分の六四、奢侈百分の二八、娼妓を買ふ者百分の三二となつて居り、杭州の人民で阿片を吸ふ者百分の一、九、煙草を好む者百分の六三、飲酒百分の二六、奢侈百分の三〇、娼妓を買ふ者百分の一四となつてゐる。また民國二十二年度に於ける中央財政の收支を見れば卷煙草の税額六千二百餘萬元、阿片及び酒稅七百六十餘萬元、合計七千萬元となり、税額から全國の消費額を計算すれば卷煙草は二百五十億本に達し、一本一分(二錢)として二億五千萬圓を消費する勘定となる。

註 最近新聞紙の報道に據れば各省で煙草を私製脱税してゐるが尙ほ且つ統稅收入は減少せず、その消費額は河北三千五百萬元、江蘇三千五百萬元、浙江三千四百二十萬元、福建、廣東、安徽、湖南、湖北、廣西等各二千萬元、陝西及び甘肅各千萬元、合計四億元の巨額に達してゐる。

然し煙草の害と雖も阿片の吸飲には遠く及ばない。民國十四年度に於て阿片を栽培してゐる省

は十數省に上り、その吸飲者數に至つては驚くべき多數に達してゐる。(註)凡そ甘肅、陝西等の西北地方では老若男女何れも阿片の吸飲を日常茶飯事とし、長江沿岸各省(安徽の如し)では至る所に阿片館が林立し、日常の交際は此處で行はれ、有爲の青年が此の悪習に染つてしまふのは誠に痛惜すべきことである。

註 社會學界七卷九十七頁には「中華民國拒毒會の調査に據れば北京一區のみで阿片の稅收年額六十萬元、また漢口は阿片買賣の中心地として知られ、阿片館三百餘軒の毎月納稅額は八十萬元に上つてゐる。而して最大の毒窟として知られる上海では南漕のみで阿片館八百軒、吸飲者が六萬人もあり、廣東では納稅額一千萬元に達してゐる。また阿片以外の麻酔藥數量も巨額に上り、民國十五年以降毎年の輸入額は四十噸、約百萬兩を下らない」とある。

中國社會一般の奢侈の風習に關しては婚葬禮の外に交際費に依つて如何に甚だしいかを知ることが出来る。楊西孟氏が上海の勞働者生活程度を調査した結果では彼等の少ない收入の中、交際費が百分の二・六を占めて居り、面子の爲めには經濟を顧みない有様である。故に富者の一宴席の費用は貧者の一年の食費に相當し、正しく「朱門に酒肉臭ひ、路に凍死骨あり」なのである。また婦女子の消費も頗る巨額に達し、國際貿易局の調査に據れば民國二十四年一月から五月迄の婦女用品輸入額は香水及び脂粉七四七、六二七元、化粧器具二二九、六一〇元、腕飾二三六、二四

〇元、合計一、一三、四七七元で半年を出でずして既に百萬元を超過してゐる故、一年間では恐らく此の二倍以上に達するであらう。

以上論じ來つた中には、國民經濟に對する影響としては或は枝葉末節の點があるかも知れぬが、大海の水も一滴から成るといふ意味に於て決して徒爾ではないであらう。